

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 北陸財務局長

【提出日】 平成26年11月13日

【四半期会計期間】 第87期第2四半期（自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日）

【会社名】 日本製麻株式会社

【英訳名】 THE NIHON SEIMA CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 中本 広太郎

【本店の所在の場所】 富山県砺波市下中3番地3  
本社事務取扱場所 兵庫県神戸市中央区海岸通8番

【電話番号】 神戸(078)332-8251

【事務連絡者氏名】 取締役経理部長 中川 昭人

【最寄りの連絡場所】 富山県砺波市下中3番地3

【電話番号】 砺波(0763)32-3111

【事務連絡者氏名】 執行役員北陸工場長 渋谷 忠孝

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)  
日本製麻株式会社神戸本部  
(兵庫県神戸市中央区海岸通8番)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第86期 第2四半期 連結累計期間	第87期 第2四半期 連結累計期間	第86期
会計期間		自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日	自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日	自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日
売上高	(千円)	2,201,581	2,378,045	4,698,874
経常利益	(千円)	16,240	95,138	82,716
四半期(当期)純利益	(千円)	125,062	2,507	124,369
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	267,168	19,448	303,357
純資産額	(千円)	1,764,279	1,817,224	1,800,443
総資産額	(千円)	4,191,028	3,797,474	3,823,563
1株当たり四半期(当期)純利益金額	(円)	3.41	0.07	3.39
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	26.3	28.8	28.9
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	70,937	38,589	199,988
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	899,366	68,668	728,987
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	453,711	317,262	930,484
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	673,697	363,966	155,956

回次		第86期 第2四半期 連結会計期間	第87期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日	自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額( )	(円)	3.38	0.04

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当社グループは、当社および当社の子会社2社で構成され、産業資材（黄麻製品、紙製品等）、各種マットおよび食品の製造加工、不動産の賃貸の事業を展開しております。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間における、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日）におけるわが国経済は、政府・日銀による経済対策効果により景気は緩やかに回復してきましたが、消費税率引き上げによる駆け込み需要の反動を招き個人消費が落ち込みました。また、円安による原材料の上昇やエネルギーコストの増加など依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような経済状況のもと、当社グループは前連結会計年度より開始した中期経営計画を推進し、経営基盤の強化と恒常的な利益の獲得を図っております。食品事業は売上の低迷及び原材料の高騰により利益を落としたが、マット事業は海外での販売が順調に推移し利益に貢献しました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は2,378百万円（前年同四半期比8.0%増）、営業利益は96百万円（前年同四半期比75.9%増）、経常利益は95百万円（前年同四半期比485.8%増）、法人税等44百万円及び少数株主利益47百万円を計上し、四半期純利益は2百万円（前年同四半期比98.0%減）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### （産業資材事業）

産業資材事業の紙袋商品は納入先の生産調整等により販売数量が伸びず、加えて一部商品で仕入原価の上昇を販売価格に転嫁できませんでした。黄麻商品は特殊仕様ジュート糸及びフレコン袋が利益に寄与しました。その結果、売上高は456百万円と前年同四半期と比べ30百万円（6.3%）の減収、営業利益は8百万円と前年同四半期と同水準で推移しました。

#### （マット事業）

マット事業の国内販売は、消費増税前の駆け込み需要で膨らんでいた受注残が一巡し、反動減が鮮明になりました。海外販売は新規顧客獲得により順調に推移しました。その結果、売上高は1,163百万円と前年同四半期と比べ374百万円（47.5%）の増収、営業利益は103百万円（前年同四半期は10百万円の営業損失）となりました。

#### （食品事業）

食品事業は、消費税増税後の個人消費の低迷や天候不順により、売上高を落しました。又、円安による原材料の高騰は利益を圧迫しました。その結果、売上高は754百万円と前年同四半期と比べ137百万円（15.4%）の減収、営業損失は16百万円（前年同四半期は31百万円の営業利益）となりました。

#### （不動産開発事業）

不動産開発事業は前期の賃貸土地売却にともない、売上高は3百万円と前年同四半期と比べ29百万円（90.3%）の減収、営業利益は1百万円と前年同四半期と比べ23百万円（95.6%）の減益となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における総資産は3,797百万円、前連結会計年度末と比較して26百万円の減少となりました。主な要因は、現金及び預金の増加208百万円、受取手形及び売掛金の減少105百万円、仕掛品の減少69百万円、原材料及び貯蔵品の減少63百万円であります。

当第2四半期連結会計期間末における負債は1,980百万円、前連結会計年度末と比較して42百万円の減少となりました。主な要因は、流動負債における支払手形及び買掛金の減少341百万円、固定負債における長期借入金の増加254百万円であります。

当第2四半期連結会計期間末における純資産は1,817百万円、前連結会計年度末と比較して16百万円の増加となりました。この結果、自己資本比率は28.8%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末に比べ208百万円増加し、363百万円となりました。

各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、前年同四半期と比べ109百万円減少し、38百万円の支出となりました。これは、主として棚卸資産の減少、売上債権の減少及び仕入債務の減少があったことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間の投資活動によるキャッシュ・フローは、前年同四半期と比べ968百万円減少し、68百万円の支出となりました。これは、主として前第2四半期連結累計期間に有形固定資産の売却による収入980百万円があったことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間の財務活動によるキャッシュ・フローは、前年同四半期と比べ770百万円増加し、317百万円の収入となりました。これは、主として長期借入による収入があったことによるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項）は次のとおりです。

当社の支配に関する基本方針

当社は、上場会社として、当社の株式について株主、投資家の皆様による自由な取引が認められている以上、当社の株式に対する大量の買付行為又はその提案がなされた場合においても、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に資するものであればこれを否定するものではなく、最終的には株主の皆様の判断に委ねられるべきものであると考えます。

しかし、当社グループの事業は、産業資材事業、マット事業、食品事業、不動産開発事業等、幅広く展開しており、当社の経営に当たっては、専門的な知識と経験の他、当社の企業理念及び企業価値の様々な源泉、並びに国内外顧客・従業員及び取引先等のステークホルダーとの信頼関係を十分に理解することが不可欠です。

従いまして、当社は、会社法施行規則第118条に定める、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方としては、これらを十分に理解し、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を中長期的に確保、向上させる者でなければならないと考えております。

逆に言えば、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を毀損するおそれがあるなど、濫用的な買付等を行う買付者及び買付提案者は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として不適切であり、このような買付に対しては、当社は必要かつ相当な対応策をとることにより、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保する必要があると考えます。

具体的には、大量買付行為のうち、当社の企業価値および株主の皆様様の共同の利益を明白に侵害するおそれのあるもの、強圧的二段階買付等、株主の皆様様に株式の売却を事実上強要するおそれがあるもの、買付に対する代替案を提示するために合理的に必要な期間を当社に与えることなく行われるもの、買付内容を判断するために合理的に必要なとされる情報を株主の皆様様に十分に提供することなく行われるもの、買付の条件等（対価の価額・種類、買付の時期、買付の方法の適法等）が当社の企業価値に鑑み不十分または不相当であるもの等は、当社の企業価値および株主の皆様様の共同の利益に資さないものと判断いたします。

よって、当社は、当社株式に対する買付が行われた際に、買付に応じるか否かを株主の皆様様が判断し、あるいは当社取締役会が代替案を提案するために必要な情報や時間を確保したり、株主の皆様のために買付者と交渉を行うこと等を可能とすることで、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に反する買付行為を抑止するための枠組みが必要であると考えます。

#### 当社基本方針の実現に資する特別な取組み

当社グループは、当社の経営の基本方針に従い、これまで進めてまいりました中期経営計画を引き続き継続するとともに、積極的な経営を断行することにより持続的成長を実現させていきます。

当社の経営の基本方針は、「産業は公共の福祉をはかれをモットーとする」であり、この基本方針を実現するために、「魅力ある商品で、お客様に豊かな生活を提供する」、「自然環境を保護し、地球と共存する」、「時代を先取りし、世界の市場に貢献する」、「人間性を尊重し、活力・魅力ある企業をつくる」ことを目指しております。

中長期的な経営戦略としましては、産業資材事業、マット事業、食品事業をコアとし、「新商品の開発・拡販」、「新規販路の拡大」、「財務体質の強化」を目標とし、中期経営計画を策定し、組織のスリム化による時代の変化への機動的な対応やコスト削減による収益力の強化、利益体質への転換に取り組んでまいります。

具体的には、

- ・産業資材事業につきましては、主力の包装容器の販売強化に加えて輸送形態の変化に対応できるように産業資材全般の取扱を積極的に進めると同時に、黄麻製品の特徴を生かしたエコ・災害対策用資材市場等の新分野への進出を図ってまいります。
- ・マット事業につきましては、自動車メーカー及び消費者ニーズに対応した特色ある機能商品の提供により収益を確保してまいります。
- ・食品事業につきましては、パスタ類の拡販に加え、レトルトソースの販売強化に傾注するとともに、市場ニーズに対応した新商品の開発を積極的に展開してまいります。

さらに、その推進体制としては商品の開発・生産を推進する「事業部制」と国内をブロックに分割して地域密着型の営業を行う「支店制度」が確立しており、販売と生産がバランス良くかみ合う推進体制により、高い競争力の実現と収益力確保をめざしてまいります。

海外事業におきましては、いち早くタイ国に拠点をつくり、現在では、東南アジア地域をはじめ、中国、中東諸国、豪州等に販路を拡大しております。また、海外事業の成長が国内事業の発展にもつなげる体制が構築され、海外での情報を独自性と競争力をもつ商品開発に生かすとともに、今後さらに国内における海外企業との競争激化が予想されるなか、当社の海外商品戦略を強力に推進してまいります。

このように当社は、顧客に対して高いブランド価値に基づいた商品の提案を長年にわたり積み重ねてきたことが、現在の企業価値の源泉になっており、企業文化の継続・発展が当社グループの企業価値ひいては株主共同の利益を最大化することにつながると考えております。今後も、中長期的な目標を見据えた堅実な経営を基本としながら、経営資源の配分の見直しや戦略的投資を行い、より競争力を高め企業の成長を推進してまいります。

また、当社はコンプライアンス体制の充実が社会全体からますます求められており、これを経営上の重要課題と認識し、内部統制システムの体制強化をはかることにより、顧客や株主の皆様はもとより社会全体から高い信頼を得るように努めてまいります。

上記取組みを着実に実行することで、当社の持つ経営資源を有効に活用するとともに、様々なステークホルダーとの良好な関係を維持・発展させることが、当社及び当社グループの企業価値ひいては株主共同の利益の向上に資することができると考えております。

基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み

当社は、平成21年5月13日開催の取締役会において、「当社株式の大量買付行為に関する対応策（買収防衛策）」（以下、「旧プラン」といいます。）の導入について決議し、発効いたしました。この際、旧プランの重要性に鑑み、平成21年6月26日開催の当社第81期定時株主総会に議案とさせていただき、株主の皆様のご承認をいただいております。

平成24年4月20日開催の取締役会において、その後の買収防衛策をめぐる動向を踏まえ、「当社株式の大量買付行為に関する対応方針（買収防衛策）の一部改訂・継続」（以下、改訂後のプランを「本プラン」といいます。）を決議し、平成24年6月28日開催の当社第84期定時株主総会に議案とさせていただき、株主の皆様のご承認をいただいております。

改訂の概要は、買付者等が回答を行う情報提供期間を設定したこと、買付者等の買付け等の評価を行う評価期間につき、上限を設定し、それ以上の延長をできないものとしたこと等の2点です。

本プランは、仮に当社株式に対する買付その他これに類似する行為またはその提案（以下、総称して「買付」といいます。）が行われた場合、買付を行う者またはその提案者（以下、総称して「買付者」といいます。）に対し、遵守すべき手続を明確にし、株主の皆様が適切な判断をするために必要かつ十分な情報および時間ならびに買付者との交渉の機会の確保をしようとするものであります。

当社は、本プランにより、当社基本方針に照らして、当社の企業価値および株主の皆様の共同の利益を明白に侵害するおそれのある買付者によって、当社の財務および事業の方針の決定が支配されることを防止し、当社の企業価値が毀損され、株主の皆様にとって不本意な形で不利益が生じることを未然に防止しようとするものであります。

本プランは、買付者が当社が発行者である株券等について、保有者の株券等保有割合が20%以上となる買付または当社が発行者である株券等について、公開買付に係る株券等の株券等所有割合およびその特別関係者の株券等所有割合の合計が20%以上となる公開買付のいずれかにあたる買付（以下、「対象買付」といいます。）を行った場合に、新株予約権の無償割当て、または法令および当社定款に照らして採用することが可能なその他の対抗措置（以下、単に「その他の対抗措置」といいます。）を行うか否かを検討いたします。

当社取締役会は、対象買付がなされたときまたはなされる可能性がある場合、速やかに当社取締役会から独立した特別委員会を設置いたします。この特別委員会は、当社取締役会から独立して本プランの発動および不発動に関し、審議・決定いたします。

当社株式について買付が行われる場合、当社は、当社取締役会が不要と判断した場合を除き、対象買付を行う買付者には、買付の実行に先立って、当社取締役会に対して、買付者の買付内容の検討に必要な情報を記載したうえ、買付者が買付に際して本プランに定める手続を遵守する旨の誓約文言等を記載した書面（以下、「意向表明書」といいます。）を提出していただきます。

その後、特別委員会は、買付者からの意向表明書および要求する情報、ならびに当社取締役会からの意見・資料・情報等を受領し、買付者と当社取締役会の事業計画等に関する情報収集、ならびに買付者の買付内容と、当社取締役会が提示する代替案の検討および比較等を行います。

特別委員会は、特別委員会の判断が当社の企業価値および株主の皆様の共同の利益に資するものとなるように、当社の費用により、フィナンシャル・アドバイザー、弁護士、公認会計士等の専門家など、独立した第三者の助言を得ることができるものといたします。

また、特別委員会の判断の透明性を高めるため、同委員会は、意向表明書の概要、買付者の買付内容に対する当社取締役会の意見、当社取締役会から提示された代替案の概要その他特別委員会が適切と判断する事項について、株主の皆様に対し速やかに情報開示を行います。

当社は、買付者が本プランに定める手続を遵守しない場合、あるいは遵守した場合であっても買付者による買付が当社の企業価値・株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらす恐れのある買付であるなど、新株予約権の無償割当てその他の対抗措置を行うことが相当と認められる場合、特別委員会の勧告に基づき、当社取締役会が対抗措置の発動および不発動を決定いたします。

この新株予約権は、当社取締役会が定める一定の日における当社の最終の株主名簿に記録をされた株主に対し、その所有する当社株式（ただし、当社の有する自己株式を除く。）1株につき新株予約権1個の割合で、新株予約権を割当ていたします。

新株予約権の目的である株式の数（以下、「対象株式数」という。）は1株であり、新株予約権の行使に際して出資される財産は、金銭とし、金1円で、新株予約権無償割当て決議において当社取締役会が決定する金額に対象株式数を乗じた価額といたします。その際、一定の買付者等による権利行使が認められないという行使条件および当社が当該買付者等以外の者から当社株式1株と引き換えに新株予約権1個を取得する旨の取得条項が付されております。

本プランの有効期間は、平成24年6月28日開催の当社第84期定時株主総会での承認可決の日から、平成27年3月期に係る定時株主総会の終結の時までの約3年間とします。ただし、本プランの有効期間の満了前であっても、取締役会の決議によって本プランを廃止することができます。

また、当社は、当社の企業価値および株主の皆様の共同利益の維持・向上を図る観点から、当社取締役会の決議により、本プランの有効期間中、定時株主総会で承認いただいた本プランの趣旨に反しない範囲内で、本プランの見直し等を行うことがあります。しかし、本プランの有効期間中であっても、見直し等の範囲を超える重要な変更が必要になった場合は、当社株主総会において株主の皆様のご承認を得て本プランの廃止または変更を行うことがあります。

本プランは、新株予約権の無償割当てが実施されていない場合、株主および投資家の皆様に直接的な影響が生じることはありません。

当社取締役会が本新株予約権無償割当ての決議において別途定める一定の日における株主の皆様に対し、保有する株式1株につき1個の割合で本新株予約権が無償で割当てられます。株主の皆様は、無償割当ての効力発生日において、当然に新株予約権者となりますので、申込みの手続等は不要です。

そして、当社が、当社取締役会の決定により、新株予約権の行使条件のもと、新株予約権を行使することができない買付者（以下、「行使制限買付者」といいます。）以外の株主の皆様から本新株予約権を取得し、それと引き換えに当社株式を交付する場合、行使制限買付者以外の株主の皆様は、本新株予約権の行使および行使価額相当の金銭の払込をすることなく、当社株式を受領することとなるため、保有する当社株式の希釈化は生じません。

当社取締役会が本新株予約権を取得する旨の決定をした場合、当社は、法定の手續に従い、当社取締役会が別途定める日をもって本新株予約権を取得し、これと引き換えに株主の皆様当社株式を交付いたします。なお、この場合、かかる株主の皆様には、別途ご自身が行使制限買付者でないこと等についての表明書面等を当社所定の書式によりご提出いただく場合があります。

#### 具体的な取組みに対する当社取締役会の判断およびその理由

前記に記載した当社基本方針の実現に資する特別な取組みおよびそれに基づく様々な施策は、当社の企業価値・株主共同の利益を継続的かつ持続的に向上させるための具体的方策として策定されたものであり、当社の基本方針に沿うものです。

また、本プランは、前記に記載のとおり、当社の企業価値・株主共同の利益を確保・向上させる目的をもって導入されたものであり、当社の基本方針に沿うものです。特に、本プランは、株主総会において株主の承認を得た上で導入されたものであること、その内容として合理的な客観的発動要件が設定されていること、弁護士・大学教授・公認会計士等の社外有識者から構成される特別委員会が設置されており、本プランの発動に際しては必ず特別委員会の判断を経ることが必要とされていること、特別委員会は当社の費用で第三者専門家の助言を得ることができることとされていること、有効期間を約3年間に限定している上、取締役会により、何時でも廃止できるとされていることなどにより、その公正性・客観性が担保されており、高度の合理性を有し、企業価値ひいては株主共同の利益に資するものであって、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	90,000,000
計	90,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成26年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年11月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	36,733,201	36,733,201	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は1,000株であります。
計	36,733,201	36,733,201		

(注) 現物出資 日付 : 昭和25年12月9日 評価額 : 19,000千円  
 出資物件 : 土地建物什器備品等 発行株式数 : 380,000株

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成26年7月1日～ 平成26年9月30日		36,733,201		1,836,660		17,380



(6) 【大株主の状況】

平成26年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
ARGENT WISE CO.,LTD. (常任代理人 みずほ証券株式会社)	388 PHAHOLYOTHIN ROAD KWAENG SAMSENNAI KHET PHAYATHAI BANGKOK THAILAND (東京都千代田区大手町1丁目5-1)	2,770	7.54
トレーディア株式会社	神戸市中央区海岸通1丁目2-22	2,746	7.48
松並 永子	山口県下関市	1,000	2.72
松岡 俊之	北九州市小倉北区	800	2.18
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1丁目6-1	708	1.93
日本証券金融株式会社	東京都中央区日本橋茅場町1丁目2番10号	666	1.81
中本 広太郎	神戸市灘区	635	1.73
郡山 英子	横浜市金沢区	631	1.72
東京海上日動火災保険株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目2番1号	400	1.09
立花証券株式会社	東京都中央区日本橋小網町7番2号	313	0.85
計		10,671	29.05

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 57,000		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 36,490,000	36,490	同上
単元未満株式	普通株式 186,201		同上
発行済株式総数	36,733,201		
総株主の議決権		36,490	

(注) 「完全議決権株式(その他)」欄には証券保管振替機構名義の株式が10,000株含まれております。また、「議決権の数」欄に、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数10個が含まれております。

【自己株式等】

平成26年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 日本製麻株式会社	兵庫県神戸市中央区海岸通8	57,000		57,000	0.16
計		57,000		57,000	0.16

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出後、当第2四半期累計期間における役員の異動は次の通りであります。

(1) 役職の異動

新役名及び職名	旧役名及び職名	氏名	異動年月日
取締役 (営業統括本部長)	取締役 (常務執行役員ボルカノ 食品事業部本部長)	村瀬松治	平成26年7月1日

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成26年7月1日から平成26年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、なぎさ監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	156,460	364,470
受取手形及び売掛金	1 829,648	1 724,537
商品及び製品	347,141	335,789
仕掛品	245,953	176,641
原材料及び貯蔵品	444,169	380,997
繰延税金資産	31,509	26,060
その他	32,386	33,627
貸倒引当金	4,153	4,127
流動資産合計	2,083,116	2,037,997
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	320,693	311,139
土地	771,801	764,128
その他(純額)	156,077	134,821
有形固定資産合計	1,248,572	1,210,089
無形固定資産	69,481	61,363
投資その他の資産		
その他	500,499	566,675
貸倒引当金	78,106	78,650
投資その他の資産合計	422,393	488,024
固定資産合計	1,740,447	1,759,477
資産合計	3,823,563	3,797,474
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	921,037	579,927
短期借入金	110,000	150,000
1年内償還予定の社債	156,000	6,000
1年内返済予定の長期借入金	107,293	179,638
未払法人税等	28,538	25,786
賞与引当金	10,790	40,510
その他	230,660	189,391
流動負債合計	1,564,318	1,171,254
固定負債		
社債	18,000	135,000
長期借入金	215,417	469,758
退職給付に係る負債	153,051	129,088
長期預り保証金	4,850	4,850
繰延税金負債	12,679	26,488
その他	54,802	43,810
固定負債合計	458,800	808,995
負債合計	2,023,119	1,980,249

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,836,660	1,836,660
資本剰余金	17,380	17,380
利益剰余金	758,886	756,378
自己株式	4,730	4,754
株主資本合計	1,090,423	1,092,907
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	14,655	12,015
為替換算調整勘定	29,157	13,444
その他の包括利益累計額合計	14,501	1,428
少数株主持分	695,518	722,888
純資産合計	1,800,443	1,817,224
負債純資産合計	3,823,563	3,797,474

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	2,201,581	2,378,045
売上原価	1,746,433	1,881,877
売上総利益	455,147	496,167
販売費及び一般管理費	<sup>1</sup> 400,202	<sup>1</sup> 399,522
営業利益	54,945	96,645
営業外収益		
受取利息	2,012	1,147
受取配当金	3,671	5,059
為替差益	-	5,466
物品売却益	5,210	217
その他	2,072	633
営業外収益合計	12,966	12,525
営業外費用		
支払利息	18,140	6,298
社債発行費	-	3,191
シンジケートローン手数料	2,000	-
金利スワップ解約損	19,103	-
為替差損	5,499	-
その他	6,928	4,544
営業外費用合計	51,671	14,033
経常利益	16,240	95,138
特別利益		
固定資産売却益	<sup>2</sup> 143,337	-
特別利益合計	143,337	-
税金等調整前四半期純利益	159,578	95,138
法人税、住民税及び事業税	15,339	22,593
法人税等調整額	20,816	22,232
法人税等合計	36,156	44,825
少数株主損益調整前四半期純利益	123,421	50,312
少数株主利益又は少数株主損失( )	1,640	47,804
四半期純利益	125,062	2,507

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	123,421	50,312
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	9,865	2,640
為替換算調整勘定	133,881	33,503
その他の包括利益合計	143,746	30,863
四半期包括利益	267,168	19,448
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	197,718	10,565
少数株主に係る四半期包括利益	69,450	30,014

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	159,578	95,138
減価償却費	42,162	41,257
貸倒引当金の増減額(は減少)	3,472	544
賞与引当金の増減額(は減少)	26,098	29,996
退職給付引当金の増減額(は減少)	27,967	-
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	-	21,053
事業撤退損失引当金の増減額(は減少)	9,200	-
受取利息及び受取配当金	5,683	6,207
支払利息	18,140	6,298
金利スワップ解約損益(は益)	19,103	-
固定資産売却損益(は益)	143,337	-
売上債権の増減額(は増加)	933	99,922
たな卸資産の増減額(は増加)	144,371	125,988
仕入債務の増減額(は減少)	267,697	336,275
その他	106,447	48,709
小計	98,312	13,099
利息及び配当金の受取額	4,124	5,345
利息の支払額	19,278	6,714
法人税等の支払額	12,220	24,120
営業活動によるキャッシュ・フロー	70,937	38,589
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	10,120	4,362
有形固定資産の売却による収入	980,000	-
投資有価証券の取得による支出	302	64,544
貸付けによる支出	930	52
貸付金の回収による収入	3,195	318
預り保証金の返還による支出	74,685	-
その他	2,210	27
投資活動によるキャッシュ・フロー	899,366	68,668
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	49,633	40,000
長期借入れによる収入	10,000	400,000
長期借入金の返済による支出	500,835	73,314
社債の発行による収入	-	116,808
社債の償還による支出	3,000	153,000
少数株主への配当金の支払額	-	2,643
リース債務の返済による支出	9,480	10,564
その他	30	24
財務活動によるキャッシュ・フロー	453,711	317,262
現金及び現金同等物に係る換算差額	954	1,994
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	517,546	208,010
現金及び現金同等物の期首残高	156,151	155,956
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 673,697	1 363,966



【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 受取手形割引高

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
受取手形割引高	75,192千円	101,940千円

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
運賃諸掛	87,424千円	85,306千円
旅費交通費	16,882千円	18,777千円
役員報酬	21,317千円	24,220千円
給与賃金雑給	114,203千円	110,428千円
賞与引当金繰入額	5,970千円	6,249千円
退職給付費用	7,575千円	5,821千円
貸倒引当金繰入額	3,472千円	544千円

2 前第2四半期連結累計期間の固定資産売却益は、土地の売却によるものであります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
現金及び預金	674,201千円	364,470千円
預入期間が3か月を超える定期預金	503千円	503千円
現金及び現金同等物	673,697千円	363,966千円

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計
	産業資材事業	マット事業	食品事業	不動産 開発事業	
売上高					
外部顧客への売上高	487,381	788,441	892,842	32,917	2,201,581
セグメント間の 内部売上高又は振替高					
計	487,381	788,441	892,842	32,917	2,201,581
セグメント利益又は セグメント損失( )	9,405	10,605	31,628	24,517	54,945

(注)セグメント利益又はセグメント損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益又は営業損失( )であります。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

前連結会計年度の末日に比して、当第2四半期連結累計期間の報告セグメントごとの資産の金額が著しく変動しております。その概要は、以下のとおりです。

当第2四半期連結累計期間において賃貸不動産を売却したことに伴い、前連結会計年度末に比べ「不動産開発事業」セグメントの資産が836,662千円減少しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計
	産業資材事業	マット事業	食品事業	不動産 開発事業	
売上高					
外部顧客への売上高	456,787	1,163,120	754,958	3,178	2,378,045
セグメント間の 内部売上高又は振替高					
計	456,787	1,163,120	754,958	3,178	2,378,045
セグメント利益又は セグメント損失( )	8,706	103,745	16,898	1,091	96,645

(注)セグメント利益又はセグメント損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益又は営業損失( )であります。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	3円41銭	0円07銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額 (千円)	125,062	2,507
普通株主に帰属しない金額 (千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額 (千円)	125,062	2,507
普通株式の期中平均株式数 (株)	36,677,095	36,676,145

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については潜在株式が存在しないため、記載していません。

(重要な後発事象)

当社は平成26年11月7日の取締役会において、下記のとおり、用地買収に応じ、固定資産を譲渡する方針を決議いたしました。

1. 譲渡の理由

平成23年9月に発生した台風12号の水害により被災した養魚場の土地の一部について、和歌山県東牟婁振興局より、太田川災害復旧助成事業に伴い、用地買収の申し入れがありましたので、譲渡の方針を決議いたしました。

2. 譲渡の概要

名称 旧浦安養魚場  
 所在地 和歌山県東牟婁郡那智勝浦町下和田644番地 他三筆  
 土地 1,224.93㎡  
 帳簿価額 0百万円  
 譲渡価額 交渉中  
 現況 遊休地

3. 譲渡先

和歌山県東牟婁振興局新宮建設部

4. 譲渡の日程

平成27年1月～3月(予定)

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年11月13日

日本製麻株式会社  
取締役会 御中

### なぎさ監査法人

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 山 根 武 夫 印

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 西 井 博 生 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日本製麻株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成26年7月1日から平成26年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、日本製麻株式会社及び連結子会社の平成26年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 強調事項

重要な後発事象に記載のとおり、会社は、平成26年11月7日開催の取締役会において、旧浦安養魚場の土地の一部について、和歌山県東牟婁振興局からの太田川災害復旧助成事業に伴う用地買収に応じ、譲渡する方針を決議している。

当該事項は、当監査法人の結論に影響を及ぼすものではない。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。